

令和 6 年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	100	学 校 名	沼津市立沼津高校・中部部	校 長 名	田 中 剛
------	-----	-------	--------------	-------	-------

＊評価は A・B・C・D を記載。

		達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題
1	地域や保護者との連携協力による安全安心な学校づくり	生徒個々の通学路に対応した交通安全教育の実施	・交通事故前年比 10%減	生徒	・交通事故 令和 5 年度 11 件 令和 6 年度 1 件 ・違反切符 令和 5 年度 232 件 令和 6 年度 342 件 (12 月末時点)	B	・交通事故は目標達成ができたが、違反切符は増加してしまった。 ・違反切符が 100 枚以上増加しているので、いつ大きな事故が起きてもおかしくない状況だという認識なので、事後指導を実施する。
		いじめ防止対策基本方針に基づく取組の実施	・SNS 問題等への計画的指導 といじめの撲滅 メディアポリシーの周知 SNS に関する講話年 1 回	生徒	・ネット依存度テストを行い、本校の依存傾向と結果を踏まえ、SNS の使い方等について講演会を行った。 ・SNS に関する指導件数はなかったが、C-Leaning で保護者になりすまし欠席連絡をする 2 件 2 名。	B	・高校 3 学年が一人一台タブレットと中部部生がクロムブックを持つようになったが、大きな指導はなかった。 しかし、C-Leaning で保護者になりすまし欠席連絡をするが起こった。教務部長に協力を仰ぎ指導を行った。今後も、連携を取りながら指導をしていく。
		PTA と連携した防災対策の推進	・防災講座の開催 ・第五校区防災連絡協議会の開催と地域防災への貢献向上 地区防災参加率 80%以上	総務	・学年毎に実施 ・自主防災会から寄せられた質問への回答と、防災マニュアルの更新を行った。 ・12 月の地域防災訓練の参加率は 44.4%だった。	B	・引き続き地区防災協議会との連携を深めるようにしていく。 ・夏の地域防災訓練は台風のため中止の地域が多かったが全体の地域防災訓練の参加率は上がった。今後も参加を呼び掛けていく。
			・感染症対策と人権教育の徹底 ・救急法訓練等の実施	保健	・感染症対策は、手洗い用液体石鹼に変更し、手を洗う時間を少しでも長くするように図った。人権教育については、カウンセリング室との連携に努め、生徒が安心して学校生活が送れるよう情報共有をした。 ・教員に対して救急救命法研修を 1 月下旬に行い、多くの教員が参加できるようにした。	A	・感染症対策は、引きつづき手洗いと換気の励行をしていく。 ・人権教育では、様々な家庭環境下に置かれている生徒について理解を深めるよう、担任、分掌間にて情報共有をしていく。 ・救急救命法研修は外部機関との連携を引き続き行いながら、定期的に研修内容を見直していきたい。
		学校施設の安全点検	・月 1 回	保健	・各学期に 1 回、施設の安全点検を行い、関係各所に結果を伝達した。	B	・修繕が必要なものについては、速やかに修繕願いを出してもらうよう周知する。
		不祥事根絶研修による取り組み実施	・体罰・交通事犯・ネットトラブル 0 件	管理職	・月に 1 回研修を行い、職員による体罰、ネットトラブルは 0 件	A	・今後も不祥事根絶に向けて真摯に取り組む。
		保護者との双方向の情報通信システムの研究	・他校の情報収集	進路	・進路指導部会への参加 ・動画のコンテンツを発信 ・大学のアドミッションオフィスの会議に参加	A	・他校と情報交換ができた。 ・大学情報や進路選択の参考になる動画コンテンツを発信した。 ・大学入試の観点に関する理解を深めた。
		学校運営協議会制度の導入の研究	・年間 4 回の実施	管理職	・今年度より学校運営協議会を 3 回実施した。	A	・年度を追ってより良い協議会の運営とその成果を学校経営にいかしていきたい。4 回実施するための調整は必要。
2	自ら学び自ら進路を切り拓く生徒の育成	中高 6 年間のキャリア教育の推進	・「総合的探究の時間」の試行・実施	学年	・探究の年間計画を作成し、その目的や身に付けるべき資質・能力を周知した。 ・探究委員会を年間 3 回実施し、各学年でやっていることや課題を共有した。 ・各学年の発表会では、地域や外部の人材に積極的に働きかけ、生徒の成長により一層資するものとした。 ・中高合同の探究発表会を実施し、次年度の探究に向けて生徒の意識を高めた。	A	・各学年が工夫しながら探究活動を実践したことで探究について自分事として考える教員が増えた。その結果、市や民間企業とも関わりながら有意義な活動を行うことができた。 ・指導方法について教員のスキルアップが求められる。 ・探究を「総合的な探究の時間」だけにせず、教科指導とも連携して、生徒がより一層学習に前向きになる環境を醸成したい。
			・中高 6 年間の進路シラバスの活用と改定 ・生徒の進路希望に応じたキャリアガイダンス、進路講座の実施	進路	・進路シラバスを活用して各種行事等を実施した。 ・各種ガイダンスに加えて、大学ガイダンスも実施することができた。	B	・中部部のキャリア教育のシラバス改定を始めた。 ・生徒の実態に合わせて多種多様なガイダンスを実施できた。 ・大学ガイダンスで多くの生徒の参加を実現できた。
		個別最適化学習の推進	・外部模試と ICT を活用した学習課題の把握 ・学力向上委員会の分析結果の活用	教科	・classi 等の学習課題を活用して個別最適化をはかりながら外部模試に備え、学力向上をはかった。 ・進研模試のデータ分析を行った。	A	・学習の効果が特に 10 月模試の結果に表れた。今後は計画的に課題等を指示して継続していきたい。 ・データの比較を通して現状を把握し、各教科の学習改善に生かすことができた。
			・手帳活用による自己管理能力の向上 年度当初より 15%向上	学年	・WEB でのスケジュール管理。 ・学習計画と実施時間の入力。	B	・WEB でのスケジュール管理が苦手な生徒もあり、来年度は学年部により WEB と手帳の 2 パターンで対応する。
		新学習指導要領への対応	・新教育課程の編成 ・中学校の評価方法を生かす高校観点別評価の研究	教務	・高校 2 年生より G 理コースを設置し、生徒個々の進路希望により一層応えられるようになった。	A	・今年度より高 2・高 3 とともに G 文・G 理混合クラスを設けた。時間割を工夫し、円滑に授業が行われるようにした。 ・今年度より高 1 から高 3 の全学年で観点別

様式第3号

		達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題
					部活動やクラス単位での図書購入の取り組みをした。		の活用を促したい。
		三道鼎立で人間力を磨く。	（文） 中等部 英検 3 級全員取得 英検準 2 級 10% 高校 難関大学進学 25% 就職決定率 100% 医療看護系志望進学率 100% 進路満足度 80% （武） 中等部 運動部県大会出場 90% 東海大会出場 2 部活 高校 運動部県大会出場 90% 東海大会出場 3 部活 新体力テスト男女優良校 （芸） 中等部 文化部地域との交流 100% 沼津市芸術祭出場 2 部活 高校 文化部 地域との交流 100% 沼津市芸術祭出場 3 部活	中等部 進路 中等部 高校 中等部 体育 中等部 高校	・英検 3 級 46.8%（第 2 回まで） ・英検準 2 級 13.9%（第 2 回まで） ・数検 3 級以上合格者無し ・共通テスト受験者 77.2% ・就職は残り 1 名 ・専門学校決定 100% ・その他継続指導中 ・県大会出場 85.7% ・東海大会以上出場（女子バスケ、柔道、弓道、陸上競技部） ・県大会出場 73% ・東海大会出場【弓道、女子バスケ、バレーボール、陸上競技】 ・成績優秀者 4 名（内満点 2 名） ※いずれも女子 ・女子が優良校として表彰された。 ・文化部地域との交流（吹奏楽部、合唱部の祭典等演奏） ・沼津市芸術祭 部活参加 高校 ・文化部 地域との交流 66.7% ・沼津市芸術祭（吹奏楽、書道）	B B B B B	・3 級取得までの見通しを全員が持てるようにする必要がある。家庭への金銭的な負担があるため、GTEC の指標を活用してもよいのではないかな。 ・数検 3 級は中学 3 年生卒業レベルのため、受験につながらなかった。 ・生徒の学力の 2 極化が見られた。年内入試の生徒への学習の意識づけも必要。また、一般試験の生徒へ年間を通してのかかわり方を考える必要がある ・個別指導の研鑽が必要 ・進路指導で行っていることをしっかり発信する必要がある。 ・女子バスケットボール部 4 名が静岡県代表として国民スポーツ大会に出場して活躍し、3 位という結果を残した。 ・東海大会出場 3 部活に加え、新体操部が全国大会出場を果たした。 ・男子の点数の向上が課題。 ・新体力テストの満点者が増えるように強化していく。 ・吹奏楽部が「ブラスの祭典 in 沼津」に出演し、地域の方と演奏を行った。地域交流を活用して地域への感謝の気持ちを示していくことを各部で再確認し推進していく。
4	持続可能な沼津市の未来を創生するグローバル人材の育成	総合的探究の時間の実施 地域探究の実施	3 年間を見通した探究学習のサイクルの実施、検証。	学年	・3 年生は進路探究を中心に行った。各分野で活躍する人物のロールモデルを学び、自己の将来展望につなげた。 ・2 年生は国際的な視野を養いつつ沼津についての探究を行った。修学旅行で訪れたシンガポールでも探究活動を行い、日本との比較や、沼津における方策を考える上でのヒントを得た。プレゼンテーションの内容を生徒一人ひとりがレポートにまとめ、個別化も実施した。 ・1 年生は「100 年後も魅力的な街づくり」をテーマに探究活動を展開した。問の立て方、情報収集、ニーズ調査など探究スキルを身につけながら、他者と協働する力を養うことができた。	A A B	・3 年生は Inspire High を使用し、各分野で活躍する人の話を聞き、そこから問いに対して深く自己探求をするとともに、他者の意見に対してのフィードバックを行った。 ・2 年生は外部団体（ディレクトフォース）の支援や修学旅行での経験を踏まえながら探究学習を深めることができた。また教育委員会主催の探究発表会にも 1 団体が申し込んだ。本選には進めなかったが、東北大学教授と意見交換をするなど、主体的に活動できた。 ・1 年生は 1 月下旬に外部より 19 名の講師を招き、学年探究発表会を実施した。約 75% の生徒が一定の満足感を得ることができた。また、講師から詳細なフィードバックを頂くことで、課題が明確となり、次のステップへ円滑に進むことができた。
		地域を支える医療人材の育成	医療看護講座の充実・医療関連施設等見学・介護体験	進路	・順天堂大学と連携し、医療看護講座を実施した。 ・国際医療福祉大学と連携し、リハビリ職講座を実施した。	A	・順天堂大学の施設を使って、ディバートの準備を行ったため、充実したディバートになった。 ・施設の訪問や看護体験が再開され、生徒の経験の場を確保できた。
		グローバル化に対応した国際理解教育の推進	・英語教育の推進 ・国際理解講座の開催年 2 回	管理職	・英語科内に英語教育推進 PT を立ち上げ、英検、GTEC の目標値を定め、中高全体で英語教育を推進した。	B	・取組を検証し継続したい。
		同窓会、PTA と連携した在校生卒業生の就職支援の研究	・PTA 保護者進路講演会の実施	進路	・3 月に進路講演会を実施予定 ・進路通信として動画の配信を実施	B	・PTA に情報を発信する機会を増やしたい。 ・6 月の PTA 大学見学が、進路説明する機会となった。
5	中高	中高の絆を強くし、6 年間の指導体制を	・自尊感情を高める指導の研究 振り返りシート	保健	・便りはカウンセリング室より 1 月現在 9 回発行しており、年度	A	・引き続き、カウンセリング室だよりに掲載する内容を、生徒の心の悩みの解消に少し

様式第3号

		達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題
	一貫の強みを生かした学校改革・働き方改革の推進	確立し、流出防止を図る。	カウンセリング室だより年10回 ・不登校対策 できたことノートの実践と研究 ・6年間で生徒を育てるための教員の人事交流、研修等の実施 ・シニアティーチャー ・難関大対策講座の充実 ・高校模擬授業、高校教員の面接の実施 ・あゆみマップの活用 ・PTA地区会員の絆の強化 エンカウンター 年2回	中等部 管理職 研修 接続 進路 中等部 総務	末には10回発行できる予定である。人権教育については、委員会生徒がアンケートを作成し、その結果を受けて人権だよりを作成、人権意識の高揚に努めた。 ・生徒が記録したものを回収し、担任が励ましの言葉を返している。 ・SCとの連携、定期的な家庭連絡を実施。 ・人事交流、中高各1人(英語) ・中高合同研修実施 ・生徒主体の運営が定着してきた。 ・生徒の希望に合わせた講座を実施中 ・模擬授業、面談を予定通り実施 ・実情に合わせた個別指導を実施 ・あゆみマップを1つの軸として、学校行事やキャリアパスポートに活用できた。 ・昨年に続き体育館にてPTA総会開催。総会への参加率は38.2%	B A A B A A	でもつながるように工夫したい。 ・例年通り、生徒が自主的に人権について考え、調査してプレゼンできる流れと、その反省を次に繋げられるような支援を継続していく。 ・生徒の実態やなかなか口にはできない悩みなどの把握ができた。担任によってやり取りに差が出てしまっているの、生徒からの声を意識的に聞く場を設けるようにしたい。 ・シニアティーチャーは中高連携のひとつの柱である。生徒の参加なしには成立しないので、生徒主体の運営ではあるが教員による働きかけも併せて行う必要がある。 ・難関大の志望理由指導を研究したい。 ・高校教員との面接に備え、学級担任との面接を重ね、自分の考えをしっかりとまとめて臨むことができた。模擬授業は、普段とは異なる学習形態でレベルアップした授業を実体験することができた。 ・1年生で作成したあゆみマップを、2、3年生まで継続できるような取り組みを考える必要がある。 ・昨年よりも参加率が向上し、約80名出席者が増えた。
		協働性の向上によるPTA活動の効率的運営	・PTA役員会の効率的運営 ・PTA地区会の質的改善	総務	・計画通り実施することができた。	A	・積極的に参加してくれた。 ・PTA地区名簿の簡略化し年度更新で実施した。
		本校教育への理解を深める広報活動の強化	・本校からの情報発信の充実 毎月、本校行事に関する記事をローカル誌への提供 ・地域及び小中学校への情報提供 市沼新聞、ALT通信 年間5回発行	管理職 総務	・ローカル誌への記事提供やHPへの掲載回数を増やしたため、HP閲覧者数が増加した。 ・市沼新聞1回発行	B B-	・今後も積極的に行っていく。 ・ホームページやブログの更新により市沼新聞の発行は減少してしまった。
		休暇取得の推進	・割振、振替の徹底 夏期休業中の休暇取得促進日の設定 ・部活動休日週1日完全実施 休暇取得促進日の取得100%	管理職	・夏季休業中の休暇取得推進日を設定したため、長期間休みをとれる人が増えた。 ・部活動休日週1日については、ほぼ実施できている。 ・体験入学の日程を2日から1日にしたため、夏季休業中の休暇を取得しやすくなった。	A	・休暇取得日数が少ない人もいるため、今後も休暇取得を促進する。
		時間外労働時間の縮減	・定時退勤日の設定	管理職	・毎週月曜日に設定している。 ・分掌、教科と連携し仕事の平準化を図った。	B	・今後も推進していく。 ・定時退勤できる人を増やし、在校時間を減らしていきたい。